
ご挨拶

報告会開催にあたって

21世紀の科学技術のなかで、最も重視されている情報科学技術は、経済社会の側面から見ると既存の産業の生産性を大きく向上させるとともに、新しい技術の開発や新産業の創出に貢献することが期待されます。

なかでも、コンピュータシミュレーションに代表される計算科学技術は、「実験」、「理論」に次ぐ第三の科学技術手法として位置付けられ、物質資源を大量に消費せず、比較的短期間で様々な分野の問題を解決するための有力な方法として注目されております。

一方、これまで以上に生産的な研究環境を実現するための情報基盤として、各地に分散している研究者、研究機関がネットワークを介して共同して研究開発を行える環境、ネットワーク上に分散した情報資源を系統的に統合し新しい生産システムの創出が望まれております。

これらの状況を踏まえ、当事業団では、計算科学技術の手法を用い、高速ネットワークを活用した特定分野の研究開発を促進することにより、計算科学技術の進展とネットワークの高度活用を図ることを主な目的として、平成10年度から「計算科学技術活用型特定研究開発推進事業」の推進に着手致しました。

この事業は、研究開発課題を産学官から広く募集し、優れた課題について共同研究あるいは委託研究により推進するもので、3年間研究開発を進める「基本型」と、1年である程度の成果を期待する「短期集中型」があります。

このたびの報告会は、「短期集中型」に参加している約50名の研究代表者が、口頭あるいはポスターセッションにおいて成果を公表するものです。

「短期集中型」においては、研究開発期間が1年と短いことから高速ネットワークの活用を必ずしも必須としておりませんが、報告会では、計算科学技術の新しい手法を用いた研究開発、あるいは分散資源をネットワークで統合した環境を活用した研究開発により、得られたソフトウェア等の成果をお知らせ出来るものと考えております。

本事業によるソフトウェア等の成果が、近い将来、社会に広く流通し、物質、材料、生命、環境、安全、宇宙等種々の分野における研究開発や生産面での諸問題解決に少しでも貢献出来ることを期待するものです。

平成12年3月9日
科学技術振興事業団
理事長 川崎 雅弘